

2023年度 研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなわずにできるだけわかりやすく記述してください。

2023年度は、計画していた以下7点・計10回の講演会やシンポジウム等を開催し、積極的な活動をおこなった。センターの運営委員である教員だけでなく、若手研究者も企画・運営を担い、現象学を中心に哲学の多彩なテーマをめぐって研究活動をおこない、いずれも多く参加者を得た。また、海外の研究者との交流も活発におこない、今後の国際的な共同研究へと道を開くものとなった。

1・ダン・ザハヴィ&ソフィー・ロイドルト講演会(2023年5月2日、衣笠キャンパス)

著名な現象学者のザハヴィ氏と気鋭の研究者ロイドルト氏を迎えた講演会を実施し、有意義な研究交流をおこない、日本の現象学研究の拠点としての役割を果たした。

2・M.メルロ＝ポンティ『子どもの心理－社会学ソルボンヌ講義2』(みすず書房)刊行記念 翻訳者トークイベント「メルロ＝ポンティと子どもの心理学を考える」(2023年7月11日、衣笠キャンパス)

メルロ＝ポンティの講義録の翻訳刊行を記念して、センター所属の専門研究員を含む訳者3名による紹介と討論を開催し、本講義録の意義を明らかにした。

3・ワークショップ「脱構築の複数性」(2023年9月23日、衣笠キャンパス)

専門研究員が中心となって企画したもので、5名の登壇者がグラネル、ナンシー、コフマンなどデリダに限定されない脱構築思想の可能性を探るワークショップを開催し、有意義な成果を得た。

4・『フェミニスト現象学』出版記念ワークショップ・全4回(2023年12月23日(「らしさ」篇)／2024年1月27日(方法論篇)／2024年2月16日(ケア篇)／2024年3月16日(生活篇)、オンライン)

『フェミニスト現象学』の執筆者であるセンターの研究者の企画により、4回のオンライン・ワークショップを開催し、各回多数の参加者を迎えて活発な議論を展開した。

5・ニルス・ヴァイトマン講演会「人間存在の間文化的次元」(2024年3月6日、衣笠キャンパス)

ドイツの間文化哲学会会長のヴァイトマン氏を招いた講演会を開催し、ハイブリッドにより国内外から他大学の研究者も集って国際研究交流をおこなった。

6・有村直輝著『生成の美と論理 ホワイトヘッドの形而上学』書評会(2024年3月16日、衣笠キャンパス)

センター所属の若手研究者の博士論文を元にした著書をめぐって合評会を開催し、その成果の意義を検討した。

7・第3回東アジア間文化現象学会議への参加(2024年3月30日、中国・広州・中山大学哲学系)

中山大学との交流にもとづく会議にセンター所属の教員2名が参加して講演をおこない、研究交流をおこない、今後の共同研究についても相談をおこなった。

また、『立命館大学人文科学研究紀要』No.136(2023年12月)において以下3点の活動成果を公表した。

小特集1・エマヌエーレ・コッチャの哲学——立命館大学での講演

小特集2・〈翻訳者の使命〉はいかに受け継がれたのか——ベンヤミン『翻訳者の使命』と、20世紀フランスを中心とするその受容

小特集3・自己と人格性——ダン・ザハヴィ&ソフィー・ロイドルト講演会

さらに、本プロジェクトの活動にもとづく成果として、論集『デリダのハイデガー講義を読む』(亀井大輔・長坂真澄編、白水社、2023年11月)を刊行した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	林 芳紀	文学部	教授	
運営委員	谷 徹	文学部	特任教授	
	加國 尚志	文学部	教授	
	伊勢 俊彦	文学部	教授	
	亀井 大輔	文学部	教授	
	永守 伸年	文学部	准教授	
	鈴木 崇志	文学部	准教授(任期制)	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	横田 祐美子	衣笠総合研究機構	助教	
	石原 悠子	グローバル教養学部	准教授	
	神島 裕子	総合心理学部	教授	
	長澤 麻子	文学部	教授	
	日暮 雅夫	産業社会学部	特任教授	
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	松田 智裕	衣笠総合研究機構	専門研究員
		酒井 麻依子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		柳川 耕平	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント	蛭子 良風	文学研究科	博士課程後期課程
		若杉 直人	文学研究科	博士課程後期課程
	大学院生			
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	有村 直輝	文学部	授業担当講師	
	小林 琢自	文学部	非常勤講師	
	青柳 雅文	文学部	非常勤講師	
	神田 大輔	文学部	非常勤講師	
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師	
	浅沼 光樹	文学部	非常勤講師	
	松葉 祥一	文学部	授業担当講師	
	松葉 類	文学部	授業担当講師	
客員協力研究員	川崎 唯史	東北大学病院	特任講師	
	黒岡 佳証	福州大学(中華人民共和国)	副教授	
	佐藤 勇一	大東文化大学	准教授	
	赤坂 辰太郎	日本学術振興会	特別研究員 PD	

	中澤 瞳	日本大学通信教育部	准教授
	小西 真理子	大阪大学大学院文学研究科	准教授
	廣瀬 浩司	筑波大学人文社会系	教授
	本郷 均	東京電機大学工学部	教授
	川瀬 雅也	神戸女学院大学文学部	教授
	郷原 佳以	東京大学大学院総合文化研究科	教授
	宮崎 裕助	専修大学文学部	教授
	紀平 知樹	兵庫県立大学看護学部	教授
	神崎 宣次	南山大学国際教養学部	教授
	池田 喬	明治大学文学部	教授
	中澤 英輔	東京大学大学院医学系研究科	講師
	佐々木 拓	金沢大学人間社会研究域	教授
	藤木 篤	芝浦工業大学工学部	准教授
	杉本 俊介	慶応義塾大学商学部	准教授
	吉川 孝	甲南大学文学部	准教授
	長坂 真澄	早稲田大学国際教養学部	教授
	西山 雄二	東京都立大学人文科学研究科	教授
	丸橋 裕	京都大学大学院医学科	非常勤講師
	Michel Dalissier	金沢大学国際基幹教育院	准教授
	伊吹 友秀	東京理科大学	准教授
	佐藤 愛	日本学術振興会	特別研究員(RPD)
	伊藤 潤一郎	新潟県立大学国際地域学部	講師
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
センター構成員 計 51 名 (うち学内の若手研究者 計 5 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	亀井大輔	デリダのハイデガー講義を読む	共著	2023年11月	白水社	長坂真澄ほか	PP. 7-25 PP. 117-151
2	永守伸年	信頼と裏切りの哲学	単著	2024年2月	慶應義塾大学出版会		PP. 1-256

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	亀井大輔	デリダと生物学主義の問題——デリダ	単著	2024年3月	脱構築研究会『Suppléments』、3号		PP. 88-99	無

		『生死』講義を読む						
2	亀井大輔	計算不可能なものへの知に向けて	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』、138号		PP. 43-59	有
3	亀井大輔	ベンヤミンを(翻訳)するデリダ——「バベルの塔」について——	単著	2023年12月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』、136号		PP. 163-180	有
4	谷 徹	鷺田清一と離一の現象学	単著	2023年4月	青土社『現代思想』5月臨時増刊号、総特集・鷺田清一、2023 vol. 51-5		PP. 264-278	無
5	谷 徹	エッセイ:「間文化現象学研究センターの創設」	単著	2023年11月	日本現象学会『現象学年報』39号		PP. 173-179	無
6	長澤麻子	ベンヤミンと詩の言語——『翻訳者の使命』の成立「環境」をめぐって	単著	2023年12月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』、136号		PP. 97-116	有
7	黒岡佳征	技術時代における人間関係を中断させる他者との邂逅——リングスにおける「信頼」と「共同体」	単著	2023年12月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』、136号		PP. 263-290	有
8	酒井麻依子	What makes a “Transparent” Body possible? On Intersectional Identity and Discrimination	単著	2023年12月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』、136号		PP. 291-305	有
9	松葉類	種差を越える愛の困難——コッチャによる「愛」が問うもの	単著	2023年12月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』、136号		PP. 27-46	有
10	西山雄二	フランスにおける「翻訳者の使命」の受容——アントワヌ・ベルマンによる純粋言語と翻訳不可能性の解釈をめぐって	単著	2023年12月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』、136号		PP. 143-162	有
11	宮崎裕助	永遠の乖離としての純粋言語——ポール・ド・マンのベンヤミン「翻訳者の使命」読解	単著	2023年12月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』、136号		PP. 191-194	有
12	鈴木崇志	価値と他者はどのように経験されるか: 現象学的アプローチ	単著	2023年6月	関西倫理学会『倫理学年報』、53号		PP. 4-15	無
13	加國尚志	鷺田清一とメルロ・ポンティ「スタイル」の現象学	単著	2023年4月	現代思想51巻5号 総特集 鷺田清一		PP. 250-263	無
14	Kakuni Takashi	Lecture de l'Esthétique de Hegel par Merleau-Ponty	単著	2024年3月	Chiasmi international 25		PP. 143-152	無
15	伊勢俊彦	農業の転換と動物倫理	単著	2023年11月	豊田工業大学『豊田工業大学ディスカッションペーパー』29号		PP. 25-33	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	亀井大輔	テキストの自己伝承——デリダにおける遺産相続の問題	2024年3月	中山大学哲学系講演会(第3回東アジア間文化現象学会議)・中山大学(中国・広州)	

2	亀井大輔	西田幾多郎『善の研究』第2編第1～5章の読解と註釈	2023年10月	第1回「日本哲学の脱構築」ワークショップ「西田幾多郎『善の研究』を読む」第2編を中心に・専修大学(神奈川県)	
3	亀井大輔	デリダ『生死』第1～3回について	2023年4月	ワークショップ「ジャック・デリダ『生死』を読む」・金沢大学(石川県)	
4	谷 徹	事象そのものへ：あいだの現象学	2024年2月	「木村敏シンポジウム」・龍谷大学	
5	鈴木崇志	フッサール『改造』論文における「人間」概念：日本哲学との比較研究	2024年3月	中山大學哲学系講演会(第3回東アジア間文化現象学会議)・中山大學(中国・広州)	
6	鈴木崇志	革新・共同体・真の人間：フッサール『改造』論文100周年記念ワークショップ	2024年3月	第22回フッサール研究会・東海大學(神奈川県)	植村玄輝・吉川孝・八重樫徹
7	鈴木崇志	Externalized and Historicized Community: A theory of Culture in the Kaizo articles	2023年9月	Husserl's Ethics in the Global Context: The Kaizo Articles Centenary Conference II, Katholieke Universiteit Leuven (Belgium, Leuven)	
8	加國尚志	スティールとアンガジュマン＝ブルーストを読むメルロ＝ポンティ	2023年9月	日本メルロ＝ポンティ・サークル第20回大会シンポジウム「70年後の『哲学を讀んで』——コレージュ・ド・フランスの未訳草稿にみる後期表現論の射程」・日本大學(東京都)	
9	伊勢俊彦	エマヌエーレ・コッチャの『メタモルフォーゼの哲学』における科学と神学	2023年4月	応用哲学会第15回年次研究大会・金沢大學(石川県)	
10	伊勢俊彦	E. コッチャの『メタモルフォーゼ』と種の境界の超え方	2023年6月	京都生命倫理研究会・京都女子大學(京都府)	
11	伊勢俊彦	農業の転換と動物倫理	2023年9月	第74回日本倫理学会ワークショップ・オンライン開催	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ダン・ザハヴィ&ソフィー・ロイドルト講演会	衣笠キャンパス	2023年5月	90名	
2	メルロ＝ポンティと子どもの心理学を考える	衣笠キャンパス	2023年7月	50名	
3	ワークショップ・脱構築の複数性	衣笠キャンパス	2023年9月	60名	科研費・基盤B「20世紀フランスにおけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明」
4	『フェミニスト現象学』出版記念ワークショップ・「らしさ」篇	オンライン	2023年12月	60名	
5	『フェミニスト現象学』出版記念ワークショップ・方法論篇	オンライン	2024年1月	60名	
6	『フェミニスト現象学』出版記念ワークショップ・ティア篇	オンライン	2024年2月	60名	
7	『フェミニスト現象学』出版記念ワークショップ・生活篇	オンライン	2024年3月	30名	
8	ニルス・ヴァイトマン講演会「人間存在の間文化的次元」	衣笠キャンパス	2024年3月	30名	
9	有村直輝著『生成の美と論理 ホワイトヘッドの形而上学』書評会	衣笠キャンパス	2024年3月	20名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
なし				

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月

